

令和6年度校内研究 研究の成果

1 研究主題について

「 国語科 自分の考えをもち、伝え合う児童の育成～読む活動を通して～」

2 研究の方法について

- ① 年に2回、児童の実態調査を実施して、数値による変容を分析する。
- ② 低・中・高学年でそれぞれ研究授業を行い、効果的な学習指導のあり方について協議を行う。
- ③ 研究授業の際に、講師より指導・講評をもらい、国語科の指導のあり方について理解を深めるとともに、研究の方向性を適宜見直していく。

3 授業研究による成果と課題

(1) 研究成果

ほとんどの学年で、「物語文は好きですか。」「物語文を読んだときに、自分の考えをもつことができているか。」の設問で肯定的な回答をした児童が増え、ほとんどの学年で成果が見られた。研究の手だてに一定の効果が認められたことや、教職員の国語科指導における授業改善の意識が向上したことが言える。

今年度は年度当初に大学教授を招聘して、授業における教師の指導法や、それぞれの教材の特色や課題作りなどについて指導を受けた。また、低・中・高学年と3回の研究授業を行ったが、互いの授業を事前や事後に見合うことで、よりよい授業のための手だてや課題について研鑽を深めた。

- 児童の感想をもとにした学習課題、単元計画の設定
→国語の教材研究の仕方について知ることができ、児童が主体的に学ぶ姿勢や達成感につながった。
- 読み取るための手がかりの提示（場面、会話文、文末表現、キーワードなど）
- 児童の思考活動を促す、言語活動の工夫（音読・動作化・吹き出しなど学習カード記入など）
→こどもが書きやすいワークシートを模索し、講師先生からご指摘ご指導で、よりよく改善できた。
- ペアやトリオなどの多様な形態で行う話し合いや意見交流の場の設定
→登場人物に寄り添った意見や吹き出しへの書き込みができるようになってきた。（低学年）
登場人物の気持ちと行動を結び付けて考えることができるようになった。（中・高学年）
→言葉から行動を読む。行動が心に表れる。教材の文章を抑えながら理解することができた。
- 動作化の導入により、こどもの意欲が向上し、楽しく学習できた。
- 音読の意味を考えて行うことができた。
- 話し合いの手順や目的、話型の提示
→児童が主体的・対話的に学ぶための工夫を意識するようになった。

(2) 今後の課題

二年間を通して国語科における研究を行い、昨年度に加えて上記の成果が見られた一方で、学年が上がるにつれて、自分の考えを友達に伝え合うことや、文章を読み書きすることについて、苦手意識がある児童が増えているという課題もある。教材が単純で分かりやすいものから、複数の叙述から読み取る必要がある複雑なものへと変わっていくことも理由として挙げられる。国語科における指導だけでなく、児童が「できた」「分かった」と実感できることが、さらなる学習意欲につながっていく。今回効果的だった手だてを、日々の他の学習にも取り入れ、系統的に指導していく必要がある。